

第2章 第2次計画推進のための具体的な取組み

1. 子どもの読書環境の整備・充実

(1) 乳幼児期における家庭、地域を中心とした読書活動の推進

乳幼児期の子どもにとって絵本の読み聞かせは、大好きなひとが自分に語りかけてくれる大きな喜びの体験であり、豊かな親子関係を築き、言葉の獲得や情緒面の健やかな育ちを促進するとともに、本に親しむ習慣のきっかけとなるものです。

子どもが生涯にわたる読書習慣を身に付けるうえで、家庭における保護者・家族の役割は大きく、子どもとともに読書を楽しみ、成長を喜びながら温かく見守ることが大切です。

家庭において、絵本の読み聞かせや読書を通じて、子どもが健やかに成長するよう、身近に本に親しむ場や読書について相談できる機会を増やし、保護者に対する継続的な働きかけを行います。

少子化による年少人口の減少や子育て世帯の核家族化などに伴い、子どもの健やかな育ちには地域や社会の支援が欠かせないものとなっています。

読書習慣の形成に当たっても、家庭での読み聞かせだけではなく、各区の地域子育て支援拠点事業（注6）実施施設（以下、子育て支援施設と表記）や市立図書館、地域ボランティア等が連携して、より多く、より様々な本とのふれあいの場をつくり出す必要があります。

【6年間の取組み状況とその成果・課題】

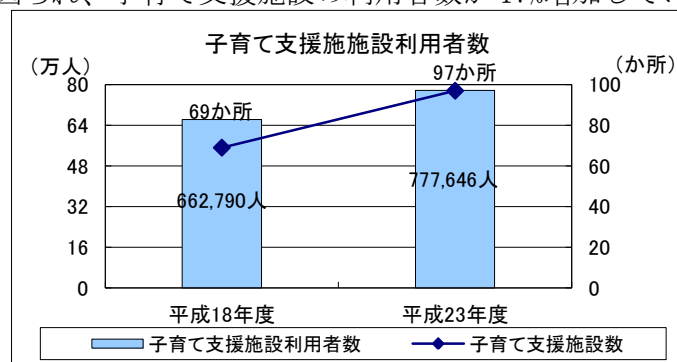
○子育て支援施設でのブックスタート事業の実施

＜取組み＞

大阪市では豊かな親子関係を築き、育児不安の軽減を図るとともに、子どもの情緒面での発育を支援するために、平成15（2003）年8月から、3か月児健診対象者に絵本を配付し、読み聞かせを体験させる「ブックスタート事業（注7）」を実施しています。当初は健診時にブックスタートパックを配付する方式で行っていましたが、平成21（2009）年度にモデル区5区、平成22（2010）年8月には全区において、子育て支援施設における配付に変更しました。

＜成果＞

ブックスタート事業を子育て支援施設で実施することにより、身近な施設での読み聞かせ等様々な活動の周知が図られ、子育て支援施設の利用者数が17%増加しています。

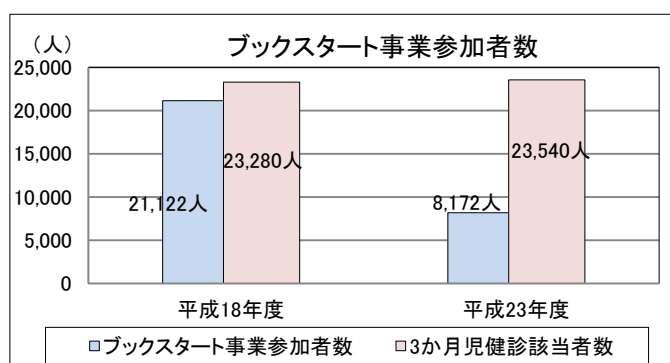


＜課題＞

- ・ブックスタート事業参加者数の増加に向けた取組みの検討

実施方法の変更によりブックスタート事業参加者数の伸び悩みが課題となっています。子育て支援施設、保健福祉センター、市立図書館が連携して、3か月児健診時にブックスタート事業の

PR を行うなど、協働してさらに積極的に啓発活動に取り組む必要があります。また、対象者がより参加しやすくなるように、各区の実情に応じた実施方法等を検討していく必要があります。



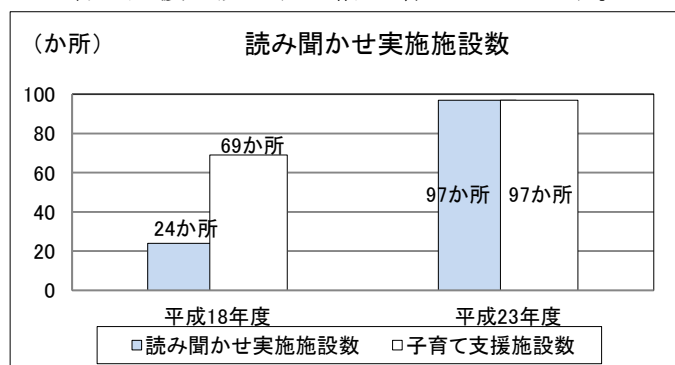
○子育て支援施設での読書活動及び連携の推進

＜取り組み＞

- ・子育て支援施設の職員や市立図書館の司書、読書支援活動ボランティア（以下、読書支援ボランティアと表記）による読み聞かせや「えほんひろば（注8）」などを開催するとともに、保護者におすすめの絵本を紹介するなどの取り組みや、季節の行事を開催する際に、関連する絵本を紹介したり、読み聞かせをしたりしている施設もあります。
- ・子育て支援施設で所蔵している絵本や、「幼児期読書環境整備事業（注9）」等により市立図書館から団体貸出で借り受けている絵本を、親子で自由に読める場所を開設したり、貸出したりしています。
- ・子育て支援施設での読み聞かせや、区で実施している「子育てフェスタ」等への図書館や読書支援ボランティアの参加等を通して、子育て支援施設やグループと市立図書館とのネットワークづくりが進んでいます。

＜成果＞

- ・読み聞かせを実施する子育て支援施設が約4倍に増加しています。



- ・読書支援ボランティアによる子育て支援施設での読み聞かせ等の回数が約4倍に増加しています。

平成18（2006）年度 567回 → 平成23（2011）年度 2,283回

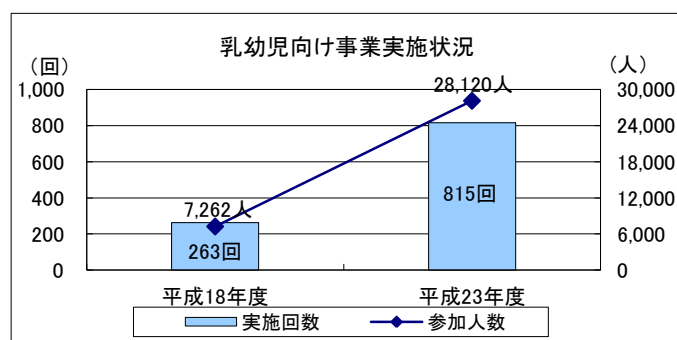
○市立図書館利用の促進

＜取組み＞

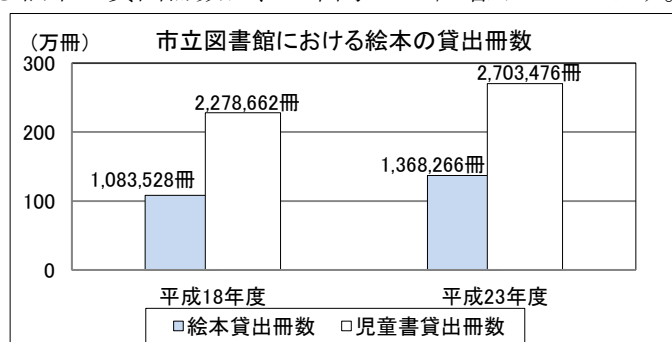
- ・3 か月児、1 歳 6 か月児、3 歳児向け等絵本リストを作成し、市立図書館や各区保健福祉センター等で配布しています。また図書館ホームページ上でも公開しています。
- ・市立図書館全館で乳幼児向け事業を実施するとともに、その情報を、区の広報、子育て情報紙、ホームページ等で広く周知しています。
- ・新刊絵本の購入だけでなく、前述の各年齢向けの絵本リスト掲載の絵本をはじめ、長く子どもたちに親しまれている絵本の複本購入・買い替え更新等を進めています。
- ・市立図書館から遠く利用が困難な方へのサービスとして、自動車文庫による巡回を行っています。自動車文庫が巡回するステーションを増やし、できるだけ多くの方が図書館を利用することができるよう取組みを進めてきました。自動車文庫の利用は、高齢者と、乳幼児を連れて遠くまで外出することが困難な若い保護者が中心となっています。

＜成果＞

- ・市立図書館内や乳幼児健康診査時等に出向いて行う乳幼児向け事業の実施回数は約 3 倍、参加人数は約 4 倍に増加しています。

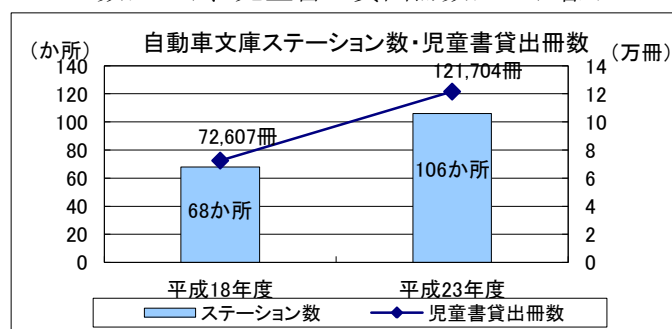


- ・市立図書館における絵本の貸出冊数は、6 年間で 26%増加しています。



※絵本貸出冊数は内数

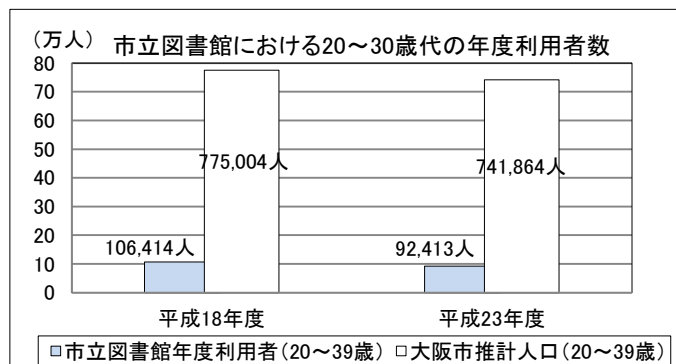
- ・自動車文庫のステーション数は 56%、児童書の貸出冊数は 68%増加しています。



〈課題〉

- ・若い保護者世代の新規登録が減少

仕事・育児等で忙しく図書館へ足を運ぶ時間がないといったことをはじめ、様々な要因が考えられますが、その世代の重要な情報獲得手段である、ホームページ等インターネット上での保護者への読書支援にかかわる情報提供が十分ではないことも大きな要因のひとつです。



※推計人口は各年の10月現在の数値です

- ・自動車文庫に関する情報提供が不十分

区の広報、図書館のホームページや町会の掲示板等を活用して巡回場所や日時の周知を図っていますが、まだまだPRが十分とはいえず、また、周知方法にも工夫が必要です。

【今後の取組み】

- ◇「ブックスタート事業」については、対象者がより参加しやすいように、各区の実情を踏まえた実施方法の検討等を行いながら実施していきます。
- ◇子育て支援施設における読み聞かせ等を継続し、保護者と子どもがより身近に本に親しめる場の提供を進めます。
- ◇乳幼児健康診査時等で、図書館がおすすめする絵本のリストや読み聞かせについての啓発パンフレット等を配布します。
- ◇自動車文庫のステーションの場所・巡回日等の情報を、区の広報をはじめとして、インターネット上の情報提供手段も活用し、積極的に周知していきます。
- ◇本市では、教育委員会が開設している「親力アップサイト」や、各区の子育て情報紙などによって、若い保護者層への情報提供を行っています。市立図書館からも子どもの読書活動にかかわる情報提供を積極的に行うとともに、図書館独自にメールマガジンの発信やツイッターの活用など、情報発信に取り組みます。
- ☆市立図書館全館で「子育て支援情報コーナー」を設置し、区役所・保健福祉センター・子育て支援施設等の子育てに役立つ情報を提供します。
- ☆市立図書館で絵本の読み聞かせや手あそび、わらべうたの講座を実施する際、出産を控えたプレママ、プレパパの参加を積極的に働きかけていきます。

☆は新規の取組みを示しています

(2) 幼稚園・保育所における読書活動の推進

幼稚園や保育所は、子どもが生涯にわたる人格形成の基礎を培う場であり、教育や保育を通して、豊かな心身の成長を促します。子どもたちは、先生や友だちとともに集団生活を過ごすなかで多くのことを学びます。集団のなかで絵本や物語の世界を楽しむことにより、家庭とは違う雰囲気や友だちとの一体感を味わうことができ、読書体験が広がります。幼稚園や保育所において、保護者に対し、読み聞かせ等の大切さや意義を広く普及します。

特別支援教育の対象となる幼児にとって、自立活動の内容であるコミュニケーションの基礎となる見る力や聞く力を養ううえで、読み聞かせを行うことはとても有効です。

平成 23（2011）年度に幼稚園・保育所に対して行ったアンケート調査では、回答があった施設すべてで「絵本等の読み聞かせを行っている」との結果が出ています。幼児期に読書の楽しさと出会うため、幼稚園や保育所において、「幼稚園教育要領（注 10）」及び「保育所保育指針（注 11）」に示されているように、絵本や物語などに親しむ活動を積極的に行うよう促していきます。

【6年間の取組み状況とその成果・課題】

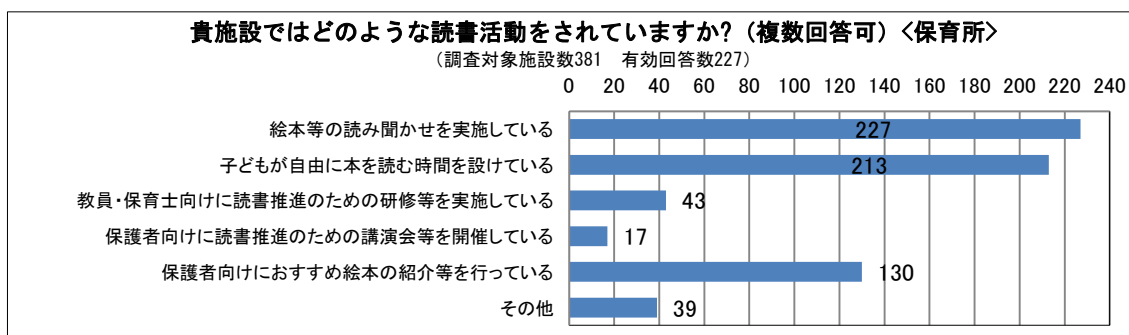
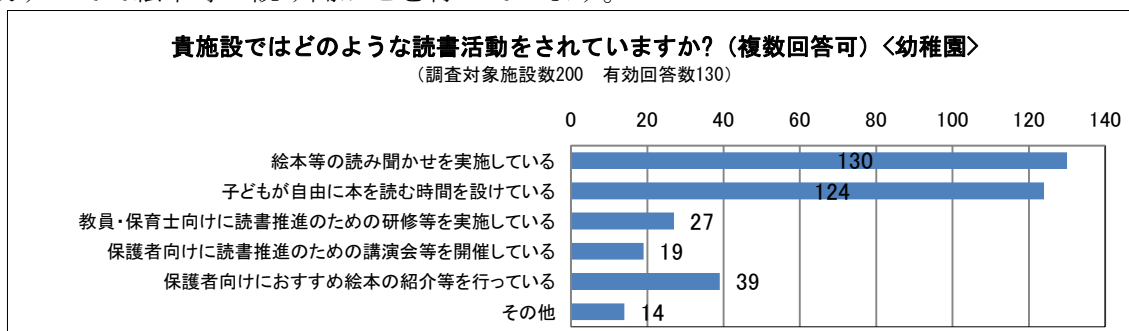
○幼稚園・保育所での読み聞かせ

〈取組み〉

- ・子どもたちがより多様な読書体験を得られるように、幼稚園・保育所で読み聞かせを実施しています。
- ・乳幼児期から継続して読書に親しむことの大切さについて理解の促進を図るために、保護者向けに読書推進のための講演会等を開催したり、おすすめ絵本の紹介等を行ったりしている幼稚園・保育所もあります。

〈成果〉

平成 23（2011）年度に幼稚園・保育所に対して行ったアンケート調査では、回答があった施設すべてで絵本等の読み聞かせを行っています。



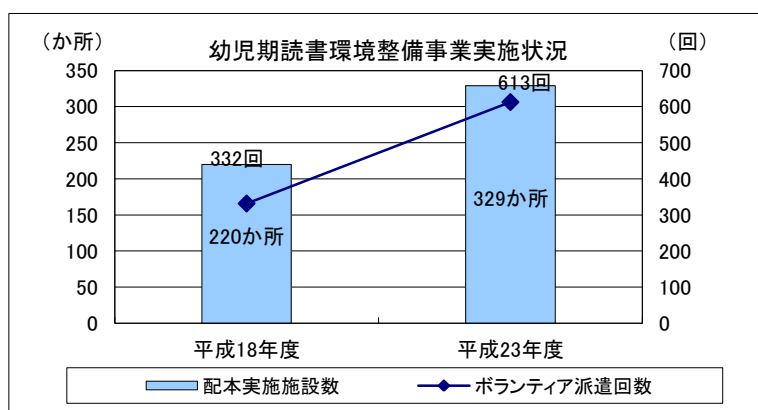
○幼稚園・保育所と市立図書館との連携

＜取り組み＞

- ・市立図書館から幼稚園・保育所等に絵本を配本したり、読書支援ボランティアによる読み聞かせ等を行ったりする「幼児期読書環境整備事業」の活用により、子どもたちの読書環境の充実を図っています。
- ・市立図書館での催しの案内を幼稚園・保育所を通じてお知らせし、参加を促しています。
- ・保護者と子どもと一緒に市立図書館に足を運ぶよう促す等、図書館や絵本に親しみを感ずてもらえるよう取り組んでいる幼稚園・保育所もあります。

＜成果＞

「幼児期読書環境整備事業」による配本実施施設数は49%、読書支援ボランティア派遣回数は85%増加しています。



＜課題＞

- ・未実施施設への情報提供が不十分

「幼児期読書環境整備事業」を活用していない幼稚園・保育所もあり、事業や図書館サービスについての周知がまだ不十分です。

【今後の取り組み】

- ◇幼稚園・保育所での読み聞かせを更に充実させるとともに、家庭への啓発を進めます。
- ◇市立図書館と連携して、「幼児期読書環境整備事業」による配本を活用した読書普及活動を継続します。